

# 岡谷市議会 総務委員会 行政視察報告書

## 【総体事項】

1. 視察日程：平成25年10月7日（月）～10日（木）
2. 調査事項（視察先）
  - (1) 食育のまちづくりへの取り組みについて （高知県 南国市）
  - (2) 移住交流支援センターの運営について  
ワーク・イン・レジデンスについて  
（徳島県 神山町）（NPO法人グリーンバレー）
  - (3) 交流定住促進事業について （香川県 観音寺市）
  - (4) こうちこどもファンドについて （高知県 高知市）
3. 視察参加委員

委員長	清水	將弘
副委員長	山之内	寛
委員	今井	康喜
委員	武井	富美男
委員	鮎澤	美知

## 【視察地報告】

### 1. 調査事項

食育のまちづくりへの取り組みについて（高知県 南国市）

人口：約48,500人 面積：約125km<sup>2</sup>

（視察事項）

南国市では学校給食は文化として考え、南国市の風土に即した形で、これまでの与えられるだけの給食から自分たちが創り上げる給食への転換を図り、食の自立を行なっている。

知育、徳育、体育の中心に食育を据えて、賢く食べる、心で食べる、体で食べるという目標を持ち、クラスごとに家庭用の電気炊飯器で炊飯するなどの取り組みをしている。

2. 視察日時 平成25年10月7日（月）14：00～16：30

### 3. 参加者所感

- 陶器窯元にて自分で絵付けしたマイ茶碗を6年間使用する取り組みや、クラスごとの電気炊飯器での炊飯は魅力的である。反面、岡谷市で実施した場合、炊飯委託業者との関係が気掛かりである。
- 漁協など食育推進協力団体の活動があり、全市挙げて食育推進計画の目標達成に協力していることは注目に値する。岡谷市でも食育推進計画が策定されているが、南国市では、食育に関する関係部課等の事業が示されており、食育の観点から体系立った施策を講じてみる必要があるのではないか。
- 子どもたちの食に関する体験が幅広く、岡谷市よりも本格的できめ細かに取り組まれている。岡谷市の子どもには暖かいご飯が配給されているか心配になる。
- 食育に関して取り組みが早く、地域との関わりを大切にして、食の大切さをきめ細かく教育に活かしていると感じた。
- 温暖な気候、広大な耕地に恵まれた良好な環境という地域の強みを活かした事業への取り組みは素晴らしいと感じた。岡谷市でも大いに参考、お手本として取り入れるべきではないか。

## 【視察地報告】

### 1. 調査事項

移住交流支援センターの運営について

ワーク・イン・レジデンスについて

(徳島県 神山町) (NPO法人グリーンバレー)

(視察事項)

仕事がない、雇用がないから移住者を迎え入れられない、それなら仕事を持った人に移住して来てもらえばこの問題は解決するという考えで、まちの将来にとって必要と考えられる働き手や起業家をピンポイントで逆指名する「ワーク・イン・レジデンス」というプログラムにより創造的過疎を目指す取り組みを進めている。

### 2. 視察日時 平成25年10月8日(火) 13:15~16:00

### 3. 参加者所感

- 国際感覚の備わったカリスマ的な理事長のもと、各種事業に取り組み、成果が上がっている印象である。できない理由よりできる方法を、とにかく始めろ、との精神は学ぶべきものがある。岡谷市においても抱える諸問題に **Just Do it** (とにかく始めよう) で臨んでほしい。
- 岡谷市の空き家対策などには参考になるのではないか。
- 企業誘致、人口増加などの地域振興を行政でなくNPO法人が旗を振り成果を上げていることには敬意を表す。岡谷市においてもNPO法人、商工会議所などに役割を担ってもらうことも一案ではないか。
- 岡谷市においても、国際化への対応、人と人のつながり、大学関係者とのつながり、芸術文化の大切さ、マスコミの利用、情報発信など地域振興に欠かせない要素を再点検する必要がある。
- 固定資産税の納付書に空き家に関するお願いを同封することは活かせるのではないか。人口がプラスに変わったという小さな町の軌跡に感動した。理事長の郷土に対する愛着心の深さゆえできたことと思う。私たちも「すきな岡谷市」に「手(て)」を加えて、「すてきな岡谷市」にしたいと思う。

## 【視察地報告】

### 1. 調査事項

交流定住促進事業について（香川県 観音寺市）

人口：約 62,700人      面積：約 118 km<sup>2</sup>

（視察事項）

観音寺市の課題として人口減少と高齢化、核家族化があり将来人口6万人以上の確保を目標に、平成21年度に観音寺市交流定住促進計画を策定し、合併特例債を利用した公共施設等の再配置による市街地の再構築などを展開している。

また、交流移住促進施策として「空き家バンク制度」、「定住促進住宅取得等助成金制度」、「住宅あっせん等助成金」などを実施している。

2. 視察日時      平成25年10月9日（水） 9：30～11：15

### 3. 参加者所感

- 数々の取り組みを行なっているが、決定打がないことが現状とのこと。どの自治体も状況は同じである。
- 宅地建物取引協会に空家バンクの仲介を委託しており、岡谷市でも検討すべきと考える。岡谷市においても空家バンクを取り入れるときは、公益法人などに委託することも選択肢の一つではないか。
- 交流定住促進計画を策定し、課題を絞ってしっかりと事業を推進されている。
- お金をばらまく時代ではない。人口問題に対しても子育て住環境（学校整備）を大切な課題として捉え、行政が前に出るのではなく、行政は民間で行うことの支援、ネットワーク作りの手伝いをしていくことが大事との考えは同感である。
- 市出身で各分野において活躍されている方に市のPRをしていただく「観音寺ふるさと応援大使」、市出身や居住経験のある市外在住者に観光写真入りの名刺や観光パンフレットを配布していただく「がんばれ観音寺応援隊」の施策は岡谷市においても取り組むべきでないか。

## 【視察地報告】

### 1. 調査事項

こうちこどもファンドについて（高知県 高知市）

人口：約338,400人      面積：約309km<sup>2</sup>

（視察事項）

「こうちこどもファンド」（18歳以下の子どもたちが、自分たちのアイデアで自分たちの住む「まち」をもっと魅力的にする活動を、上限20万円で3年間まで助成金を交付し支援するもの）により、新たな発想によるまちづくり活動の提案や助成を受けた子どもたちが、大人になっても地域社会に目を向けてもらうことにも期待している。

2. 視察日時      平成25年10月10日（木）9：00～10：30

### 3. 参加者所感

- 少子高齢化が進む中、子どもたちの目線から生まれたアイデアによる各種の事業が、まちを若返らせ、活気を取り戻す良い機会になるのではないか。
- 全てが子ども主体の事業であり、子どもの市民性の醸成など高邁な目的を持った事業である。
- 岡谷市でも即実践してみたらどうか、子どもの目線に立ったまちづくりを実施することも大切である。
- 全国に先駆けたすばらしい施策と思う。子どもの市民性の向上となり、うらやましい施策である。
- 土佐の「異骨相」魂を受け継いだ施策であると思う。「未来ある子どもたちへの投資」、岡谷市でも是非取り組んでほしい。